

## 雨竜沼湿原における環境美化整備等協力金の徴収

暑寒別天売焼尻国定公園にある雨竜沼湿原は、年間6万人程度の利用者が訪れる北海道最大の山岳型高層湿原である。札幌、旭川といった大都市から近く、初夏に植物が一斉に開花するため、日帰り利用者が集中し、駐車場や木道での混雑、踏みつけによる湿原生態系への影響が懸念されている。雨竜沼湿原への登山口（南暑寒荘）では、昭和61年より、環境美化整備等協力金200円を任意で徴収し、登山口のキャンプ場やトイレ、登山道の整備、維持管理を行っている。山のトイレの設置や維持管理においても、その費用の負担者や、登山者から使用料やチップを徴収する可能性は、常に議論の対象となる。雨竜町の担当者の話をもとに、その主旨や協力金の使途について、概要を報告する。

### 1. 入込客の推移

昭和60年ころ、5万人前後だった雨竜町への観光客の入込数は、平成2年の国定公園昇格の頃から増加し、6万人を超えている。登山口で入山受付をした登山客も、平成3年の約8千人から平成10年には約1万3千人と急増している。団体客が増えているが、宿泊客は減少しているらしい。国定公園への昇格を機に、登山口周辺は「雨竜沼湿原ゲートパーク」として、南暑寒荘、キャンプ場、駐車場、水洗トイレの整備が行われた。

### 2. 協力金の趣旨

雨竜沼湿原環境美化整備等協力金は、雄大な自然、暑寒別連峰や雨竜沼湿原を将来にわたり自然のままに多くの方に楽しんでもらうため、環境美化や案内看板整備等の資金として徴収されている。また、協力金の徴収により、登山客の環境美化への意識高揚を図る意図も含まれている。

協力金は、昭和61年度から雨竜町観光協会が導入した。当初は、協力金の徴収に対する反論もあったようだが、年々定着し、登山客の増加もあり、20万円程度だった納入額は、平成10年には300万円近くまで増えた。平成6年からは、雨竜町の一般会計に繰り入れ、町の国定公園内の環境美化整備費の一部に充当している。

### 3. 協力金の使徒

協力金は、金額の少ないうちは、トイレトーパーなどの消耗品の購入に主に充

てられていた。雨竜町の一般会計に繰り入れられてからは登山道の維持管理費や施設の修繕費、管理者の賃金の一部となっている。雨竜町が1年に国定公園内の施設整備や維持管理にかけているのは約 1,300 万円、そのうちの4分の1が協力金によってまかなわれていることになる。

#### 4 . 登山者の反応

平成 8 年に登山者に雨竜沼湿原における環境保全や協力金の徴収の態度に関するアンケート調査を行った北海道大学農学部の庄子康氏の卒業論文によれば、200 円の協力金は「湿原の保護のために使われるならば、支払っても良い」と8割近くの登山者に好意的に受け入れられていた。さらに、協力金を支払うことで、「自分は保護に協力している」、「保護することにはお金がかかる」と感じた登山者が多かった事も示され、協力金の徴収により、雨竜沼湿原の保護に対する意識を向上させるという役割が機能していると考えられた。その一方で、協力金に関心の低い層の存在も指摘されるなど、利用者からの協力金の徴収や運用には、まだ検討すべき課題も多い。

雨竜町では、将来、金額が増加した場合には財団等を設立し、運用していくことも検討されている。現在策定中の雨竜沼湿原の将来に向けた保全プランの施策の推進に、協力金を使用することも必要と考えられている。

(ヒアリング：横須賀邦子、文責：愛甲哲也)

雨竜町観光入込客数 推移			平成11年度雨竜町国定公園内環境美化整備費	
	観光入込客数 (千人)	うち入山受付 (千人)	協力金納入額 (千円)	支出 (千円)
昭和61年	54		454	ゲートパーク管理(清掃)賃金 1,698
昭和62年	52		229	ゲートパーク清掃用消耗品 120
昭和63年	46		202	案内看板書き替え 200
平成元年	51		95	ゲートパーク施設経常経費 7,476
平成2年	53		113	ゲートパーク施設修繕費 2,050
平成3年	61	8	654	登山道維持管理費 409
平成4年	61	8	1,445	雨竜沼湿原工モニター委託料 1,018
平成5年	61	10	2,196	計 12,971
平成6年	63	10	2,258	
平成7年	61	12	2,359	
平成8年	59	12	2,381	
平成9年	65	14	2,938	
平成10年	62	13	2,856	